

# The Environmental Challenge

アンケートに  
ご協力を  
お願いいたします。



**SANKO**

TEL 0859-44-5367

FAX 0859-42-3864

〒684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地17

<https://sankokk-net.co.jp>

## ▶ 会社概要

商 号 三光株式会社

代 表 者 三輪 昌輝

設 立 1979年9月

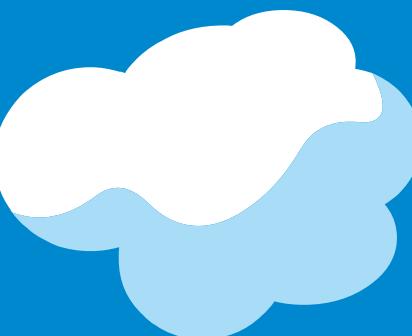
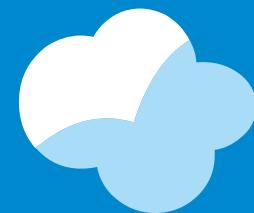
資 本 金 4,800万円

従 業 員 303名(2022年9月1日現在)

CSR REPORT 2022

みらい  
book

*The Environmental  
Challenge*



エコで未来を創造する。  
**SANKO**  
Creating The Future with Eco

## ECOで 「みらい」を 創造する。

ECOで「みらい」を創造する  
私たち三光の企業像や事業活動に関する  
さまざまな取り組みを紹介するとともに、  
環境活動・地域貢献活動などについて  
記載しています。

### 【報告範囲】

対象組織：三光株式会社

※一部、三光グループ会社の活動報告を含みます

対象期間：2021年4月～2022年9月

※一部、対象期間外の情報を含む他、

環境データは2021年4月～2022年3月としています

### index

編集方針／目次	02
メッセージ 代表取締役社長 三輪昌輝	04
特集① 三光グループ創立50周年	06
特集② とっとりSDGs企業認証	07
環境について	08
地域について	10
コンプライアンスについて	12
社員について	14
コラム	16
三光グループの取り組み	17
企業データ	18
会社概要／編集後記	22



## お客様に地域に 必要とされる 企業を考え 創造してまいります

三光 株式会社  
代表取締役社長

三輪 昌輝

皆様、毎々格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。お陰様でCSRレポート(第4版)を発行することとなりました。今回からは昨年度の事業活動の他に財務データなども併せてご報告申し上げるべく、構成を再考いたしました。ぜひ最後までご一読いただけますと幸いです。

依然としてコロナ感染状況は終息の方向には向かっておりませんが病気の実態が分かり、経済活動を止める政策はしない方針が明らかとなり、Withコロナという新しい社会のルールが誕生しつつあります。もっと早くにこの政策方針をとるべきだったと思うところではありますが、国という単位であれば致し方ないことかもしれません。そこに加え、ロシアの侵略行為により、エネルギーや穀類が高騰。加えて、海上コンテナの不足からの輸送費の高騰、円安が日本経済に大きな影響を及ぼしており、企業の経営は厳しい現状であります。政府の金融政策の是非を問うことはないのですが、エネルギー政策はすべての産業の原動力でありますので、注目しております。特に電力単価の高騰は脱炭素社会に舵を切った方針に水を差す現象であり、1日でも早く現在稼働させていない原子力発電所を動かすなど、大胆な政策を実施し、電力の高騰を抑止して頂きたいと願うばかりであります。いずれにしても、ほとんどの産業に

おいて、従来のビジネスモデルでは成長が見込めない不安感があり、新事業構想を実践する企業が生き残る、業界再編成の時代であることを予見しております。

さて、廃棄物業界においても、廃プラスチック、みどりの食料システム戦略や脱炭素社会、循環経済社会など、社会のニーズと法改正が加速して変化しており、その対応に追われている状況であります。すべての分野で対応することは至難でありますので、1つでも得意分野をもち、それを強みとして共感できる企業とチームを結成し、活動することが有利に発展できると考えております。一方、お客様も脱炭素、SDGsを経営の中心に位置づけ、従来のビジネスモデルの変革を外的圧力に押されながら急速に対応されていると耳にするようになりました。改めて、しっかりとアンテナを広げ、これまで培ってきたノウハウを出し惜しみすることなく投入し、「お客様に地域に必要とされる企業とは何か」を一意専心に努め、全社をあげて一所懸命に事業活動に邁進してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



### 企業理念

私たちは人類の永続と繁栄と幸せのため  
創造的思考をもって楽しく、真面目に、一所懸命行動し  
地域にとってなくてはならない企業であり続けます。

三光株式会社は、企業理念の根幹たる「地域にとってなくてはならない」を創造し、今日まで活動して参りました。近年、「環境」は世界の中心課題であり、SDGsを旗頭に持続可能な社会を構築するべく、活動が日本でも大きく広がってきております。弊社も、17の目標を正しく理解し、その一助となるべく、「楽しく」、「真面目に」、「一所懸命に」活動して参りたいと考えております。引き続き、ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

# 50th Anniversary

## 創立50周年を迎えるました

三光ホールディングス株式会社  
代表取締役

### 三輪 陽通

三光グループは皆さまのおかげで、創立50周年を迎えることができました。心より感謝を申し上げます。三光の50年は苦難の連続でした。50年前に創業者の三輪博美は、石油会社として身を立てましたが、米子道が開通し、道路網が整備されると、事業の再編・縮小を余儀なくされました。それを機に一念発起し、廃棄物処分業に新規参入いたします。今だから言えますが、この無謀とも言える挑戦が、今の三光グループの礎となりました。途中、絶余曲折もありましたが、その都度、周りの支えもあり、地元に育てていただき事業を拡げることができました。

今の時代は、世界情勢も不安定であり、価値観の変化も早く、先が読めない時代です。このような状況下において、我々のやることは、地域への貢献と大きな社会的意義の双方を常に意識しながら、創業時と変わらず、ご縁を大切に、皆さまのお役に立てるよう引き続き社業に邁進していくことです。皆さまにおかれましては、どうぞ変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。



### 創立50周年記念品

三光グループの50年間を支えてくださった皆さまへのお礼を込めて、記念品を選出、制作をしました。



■リサイクル銅を使用した  
アイスクリームスプーン

株式会社エコネコ様にご協力をいた  
だき、廃棄物由来のリサイクル銅を使  
用し作られたスプーンです。柄の部分に  
周年ロゴマークを刻印しています。



■周年ロゴ入りのどら焼き  
丸京製菓株式会社様にご協力い  
ただき、ロゴの焼き印を入れた  
オリジナルどら焼きです。

その他、竹を原料としたバンブー繊維を配合した環境に優しいカフェタンブラー、  
海洋プラスチックで作られたボトルベン、コロナ禍で衛生面に気を使うシーンに  
活躍するウェットティッシュ、お弁当箱などが入るサイズのエコパックなど、全  
6点をご用意しました。これらの記念品は約1年前から周年記念プロジェクトのメンバーが試行錯誤して、SDGsの観点や環境への配慮、実際にお客様にご利用いただけるシーンを想定して選出しています。

### 50周年ロゴに 込めた想い



2022年9月、50周年を迎えることを記念して、2021年6月より周年記念PJチームを立ち上げ、新たに周年記念のロゴマークを制作しました。周年ロゴマークでは、50周年の「50」という数字と、グループ名の「三光」を組み合わせて、「三光グループの光がこの先に続いていくこと」を表現しています。そして、SDGsをテーマとして、SDGsの17色を使い「光」という漢字を表しました。また、ここまで半世紀はお客様をはじめ、地域の皆さま、協力会社の皆さまあっての道のりでした。そのため、感謝・ありがとうの想いを文字ではなく、ロゴ全体の雰囲気から感じられるようにしたいと思い、「大きな感謝」の想いを込めてデザインしています。

1972年	9月 三光産業(株)設立 資本金300万円
1981年	7月 産業 廃棄物処理業許可取得
1988年	6月 産業廃棄物焼却プラント完成
1990年	4月 東京営業所開設
2005年	12月 ISO14001認証取得
2008年	12月 江島工場 排熱発電開始
2010年	2月 潮見工場 排熱発電開始
2011年	9月 RPF(固体燃料)がJIS認証を受ける
2013年	8月 低濃度PCB無害化処理開始
2015年	7月 三光エナジーサービス株式会社新設分割によって設立
2015年	11月 株式会社エイチテック三光Gの一員へ
2017年	5月 (有)湯浅建材(現:コーケン)業務提携
2019年	6月 サンライズさんこう特例子会社認定
2020年	9月 「再エネ100宣言 RE Action」参加表明
2022年	7月 とっとりSDGs企業認証認証企業へ

### とっとりSDGs企業認証制度の認証企業となりました！

弊社は「とっとりSDGs企業認証（第1回公募）制度」の認証企業となりました！

「とっとりSDGs企業認証制度」とは、都道府県では全国で初めて制定したSDGs認証制度です。鳥取県が、持続可能な「社会」「経済」「環境」の実現に向けた経営に取り組む事業者を対象に、取り組みのさらなる深化や企業の持続的成長や価値向上を応援するため、SDGs経営の取り組みを県独自で認証する制度として2022年4月に創設しました。持続可能な地域社会、産業の持続的発展とともに、将来の事業継続を目指す県内企業の取り組みを3側面から評価し、認証する制度です。

また、2022年7月22日(金)には、とりぎん文化会館で行われた認証式に出席し、都道府県単位では初めてとなる今回の制度において、弊社を含めた27社が認証され、平井伸治県知事より認証書が授与されました。

私たちは社会・経済・環境の3側面において、各10個ずつの取り組み項目に対して現在の取り組みから2024年までの目標を掲げて、SDGsの達成に向けてつとめています。

今後も廃棄物処理を行う総合環境事業者としての特性を自覚し、SDGsを前向きに受け止め、取り組みを総合的に進めてまいります。そして、さらなる地域貢献を目指し、地域やステークホルダーの方々に対してSDGsの取り組みを分かりやすくお伝えしていきます。



認証式での集合写真

### 持続可能な社会の実現 Sustainability



認定証

持続可能な社会の実現に向けて

SDGs

# 未利用エネルギーを活用した海藻の陸上養殖やリサイクル技術の発展によるSDGsの推進

## 「自然の恵み 海ぶち」の試験養殖

弊社では、2019年より共同研究している鳥取県栽培漁業センターと共に、工場排熱を利用した「自然の恵み 海ぶち(フサイワヅタ)」の試験養殖を開始しました。

「フサイワヅタ」とは、鳥取県海域に自生している海ぶどうの一種で、弾けるような食感やミネラルを豊富に含んでいることから食用として人気があります。更に、環境面でも、森林の木々と同様にCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)を吸収してO<sub>2</sub>(酸素)を放出するため、脱炭素社会の推進に貢献できるものと考えています。また、地産地消の推進を図るために「海ぶち」の一般販売を目指し、2021年10月から11月末までの期間で、商品名を弊社WEBページにて募集しました。その結果、「自然の恵み 海ぶち」という商品名に決定し、現在では「海ぶち」という愛称で親しまれています。

2022年4月には、地元スーパーのご協力を受け、試食調査を実施し、当日は多くの一般のお客様に貴重なご意見を頂戴しました。頂いたご意見を基に改良を重ねつつ、将来的には教育機関との商品開発等を視野に入れて養殖事業に取り組んでいきます。

今後も、より効率的なCO<sub>2</sub>回収技術の確立やLEDを使用した養殖技術の検証等を行うなど、「海ぶち」の陸上養殖による更なる温室効果ガスの削減効果に期待しています。



■ 海ぶち(商品&amp;商品用シール)



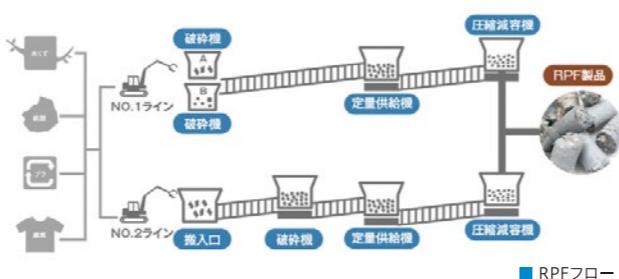
■ 試食会

## デマンドレスポンスへの対応

江島工場では、電力会社、協力会社と共に『デマンドレスポンス』に取り組んでいます。

デマンドレスポンスとは、電力の安定供給を行う為に供給(発電量)と需要(消費電力量)を同量に保つように電力使用量の調整を行う新しい取り組みです。

弊社では、発電量の不足が危惧された際に、電力会社から送られてくる要請に基づいて、江島工場内にある電力使用量の大きな設備の一つであるRPF(固形燃料)製造ラインを停止して、電力不足が懸念される時間帯の使用電力を抑え、電力の供給量に需給量を合わせて電力の効率的な需給バランスに貢献する取り組みに参加しています。



【参考】  
[https://www.tepcoventures.co.jp/flexbee/demand\\_response](https://www.tepcoventures.co.jp/flexbee/demand_response)

## 石膏ボード分離機の導入

江島工場では、2021年12月より石膏ボード分離機を新たに導入しました。

石膏ボードとは、「石膏」を芯材として、両面と側面をボード用原紙で包んだ板状の建築資材で、住宅やオフィスなどの壁や天井の内装材として使用されています。

今回導入した石膏ボード分離機では、廃石膏ボードを両側から圧縮し、内部破壊させることによって、紙と石膏粉に分離する事が出来ます。

今までの処理工程では破碎後に埋立処理をしていた石膏ボ

ドですが、この石膏ボード分離機の導入により、紙はRPF(固形燃料)の原料へ、石膏粉は協力会社に委託することによって建築資材へと新たに生まれ変わることが出来ます。



■ 石膏ボード分離



■ 分離後  
[紙]  
■ 分離後  
[石膏粉]

## 移動式破碎機の導入

2021年12月より、江島工場に移動式破碎機を導入しました。混合廃棄物の選別やRPF(固形燃料)の製造を行う前に、移動式破碎機を用いて荒く破碎してから各処理工程に移り、処理作業を行います。この移動式破碎機の導入によって処理前の荒破碎が可能となり、選別処理や圧縮固化処理(RPFの製造)の生産能力が向上し、効率的にリサイクルする事が可能となりました。



■ 移動式破碎機

## 環境ボランティアを実施

三光グループでは春と秋の年2回、環境ボランティアを実施しています。

当日は弊グループの社員だけでなく、そのご家族を含めた総勢約120名で潮見工場や江島工場といった各拠点の周辺のごみ拾いや、草刈りなどの清掃活動に取り組みました。

今後も総合環境企業として地域環境保全活動に取り組んでいきます。



■ 潮見工場 参加者集合写真



■ 江島工場 清掃活動中

## 未来を担う若い世代への貢献と 地域と共にささえる企業との関わり

### 安来市の企業版ふるさと納税

島根県安来市の企業版ふるさと納税に協力しました。正式名称を、地方創生応援税制といい、国が認定した地域再生計画に評する地方公共団体の取り組みに対して、企業が寄付を通して協力することができる制度です。この度は、市内の小中学校でもITツールを用いた学習が進む中、事業を通して子どもたちの基礎学力や情報通信技術の活用力の育成、積極的な課題解決能力の向上を目指した学びを提供することを目的として、安来市が行っている「安来市の地域を担う人材育成プロジェクト」への支援を行いました。弊社は当事業を5年間に渡って支援することを計画しており、今回で2年目の取り組みとなりました。今後も地域社会に寄り添い、子どもたちがより質の高い教育を受けられる未来を目指して、地方創生を掲げる事業活動や地球環境保全等の取り組みに参画していきます。



### 教育機関等への出前授業・職業講話の取り組み

これからの地域を担う若い世代への教育を目的として、県内9つの小学校中学校を含む教育機関で出前授業・職業講話を実施しました。出前授業は、「リサイクルと私たち」と題して、自分たちが環境のためにできることをみんなで一緒に考えることにテーマを置き、クイズや実験を交え、弊社オリジナル産廃カードゲームやリサイクル燃料を手に取り観察しながら、廃棄物の現状やリサイクルについての学びの場としています。職業講話は、主に中学生の皆さんに対して、働く意義や自らの生き方を考えることに焦点を当て、仕事をする上での心構えやさまざまな仕事について学ぶ場として、取り組んでいます。特に近年は新型コロナウィルスの影響により課外学習が減ってきており、多くの教育機関からお声かけを頂きました。



### 中海でゴズ(マハゼ)の稚魚調査

2021年5月11日(火)、中海(島根県東部～鳥取県西部)に生息しているゴズ(マハゼ)の生態環境を調べるために、鳥取県水産試験場と境港総合技術高等学校の食品・ビジネス科と海洋科の生徒の皆さんにもご協力いただき、合同で稚魚の調査を行いました。当日の中海は風が強く肌寒い中でしたが、皆さん真剣な表情で網を引き上げ、ゴズを含むハゼ科の魚のほかカレイなど10種類近くの稚魚が見つかりました。水産試験場の方から、稚魚の目の位置・頭の形の違いなどの特徴の説明のほか、「イケメンな魚がゴズです」と見分ける方法を教えてもらいました。以前の中海は、生活污水の流入

によって水質が悪化し魚の数が減少していましたが、砂の入替えなどの取り組みにより少しずつ環境が改善されています。今後も水産試験場や教育機関と共同し、地域の生活環境向上に向けた取り組みを深めていきます。



### 「地元の名店応援プロジェクト!!」の開催

コロナ禍の中、何か地元を盛り上げたいという思いで、2022年5月28日(土)・29日(日)に「地元の名店応援プロジェクト!!」と題し、鳥取県境港市にある地元で人気の「肉道楽いろは」様にご協力いただき、からあげとチューリップを販売するイベントを開催しました。会場はグループ会社の三光エナジーサービス株式会社オイルキャップ江島給油所。イベント宣伝用横断幕と、当日使用したオリジナルTシャツは特例子会社サンライズさんこうで作成と、自社のみではなくグループ会社と力を合わせて作り上げました。2日間を通して、多くのお客様、社員やそのご家族、ご友人にも来店いただき、イベントが社内間での交流の場ともなりました。今後も地元の皆さんと一緒に盛り上げていけるようなイベントを考えていきたいと思います。



### ソフトボール親善試合の開催

弊社お取引先である、有限会社島根環境保全センター(島根県浜田市)様とNX境港海陸株式会社(鳥取県境港市)様、そして弊社の3チームでソフトボール親善試合を開催しました。日頃からお世話になっているお客様との親睦を図るとしても良い機会となりました。当日は日曜日にも関わらず、遠方よりお越しいただき、選手・応援含め3チーム総勢約50名の方にご参加いただきました。ご参加並びにご協力くださいました皆さま、暑い中、誠にありがとうございました!今

後も、お取引先との交流や地域との交流、社員との親睦を深めるさまざまな活動を継続していきます。



## 法改正への対応や コンプライアンス遵守の盤石な基盤づくり

### ■ 島根産業安全衛生大会にて奨励賞を受賞

2021年10月20日(水)に行われた「島根産業安全衛生大会」において、弊社の江島工場が奨励賞を受賞しました。

「島根産業安全衛生大会」とは、島根県内にある各事業場の安全衛生の意識向上を図るために島根労働災害防止団体連絡協議会が主催で毎年開催し、安全衛生基準の向上発展に貢献、安全衛生に関する取り組みが優れている事業場に対し表彰を行う大会です。

表彰式では江島工場が島根労働局長安全衛生表彰奨励賞を受賞。祝辞の際には、丸山島根県知事からお祝いの言葉をいただきました。

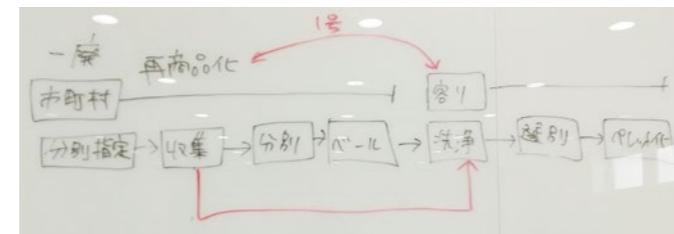
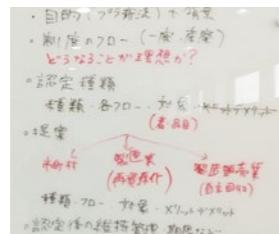
今後もこのような賞を受賞できるよう、安全作業・安全第一に努めています。



### ■ 廃棄物勉強会～廃プラ新法への対応～

「プラスチック資源循環促進法(廃プラ新法)」の制定に伴い、廃棄物業界に影響を及ぼすと考えられる事柄について、コンプライアンス推進課長が講師となって勉強会を行いました。今後、廃プラの抑制とマテリアルリサイクルが主流となる流れを受け、廃プラの取引に関する大きな変化に対応すべく、勉強会を通じて営業社員を中心に理解を深めました。

日頃から法令の情報収集に努めると共に、環境に関連する法改正等の最新情報を社内共有し、コンプライアンス遵守に努めています。



### ■ 収集運搬許可品目の統一化

2021年より全国の都道府県における収集運搬の許可品目を統一化する取り組みをスタートしました。本取り組みは、各都道府県における収集運搬許可の更新のタイミングに併せて、弊社処理工場で処分可能な全ての品目を追加取得する

ことで、どの地域からでも安心して収集運搬業務を委託頂くことを目的としています。数年間をかけて許可品目の共通化を目指し、廃棄物の収集運搬における法令遵守に継続的に取り組んでいきます。

### ■ アルコールチェックの強化

2022年4月から施行された改正道路交通法施行規則では、「運転前後の運転者に対し、目視等で当該運転者の状態を確認することにより、当該運転者の酒気帯びの有無を確認することとなりました。

弊社では従来から収集運搬業務を行う部門ではアルコール

検知器を用いたアルコールチェックを行っていましたが、この改正により営業車両を使う営業部門においても運転者の顔色や応答する際の声の調子等で確認を行い、法令の遵守と安全運行に努めています。

### ■ 5Sパトロールを毎月実施

弊社では今期より安全衛生、廃棄物・書類(マニフェスト・産廃帳簿)の適正保管、社内広報について、毎月パトロールを行い、工場や各事業所における適正管理や順守状況の確認及び改善を行っています。

#### 【確認項目】

- 先月指摘事項の改善状況
- 過去(1年間)に発生した労災事故対策の取組み
- 工場内の不安全行動、不安全状態
- 書類(KY、リスクアセスメント、設備メンテナンス記録、他)
- 廃掃法遵守状況について
- マニフェストの保管
- 廃棄物の保管状況
- 社内ルールの遵守状況
- etc.

また、これらのパトロール結果や業務中のヒヤリハット、物損事故や労災事故情報の全社共有を行い、再発防止に向けた是正対策を協議したり、不安全箇所の撲滅に向けた取り組みを強化することを目的として、安全衛生委員会を開催し、安全意識の向上や安全作業の徹底に取り組んでいます。



## 社員間の風通しを良くし、個々の成長に対するモチベーションを促進させる職場づくり

### ■ 若手社員研修

新卒入社後1~4年目までの社員を対象とした、若手社員研修を実施しました。当研修は、日頃の自分の業務を振り返り、「今後どのように成長していきたいか」という目標を明確にすることで、業務に対する主体性や責任感をさらに深めてもらうことを目的に企画しました。研修のまとめとしてグループごとに作成した「未来新聞」では、「10年後の三光はどうのようになっていたいか」をテーマに、より良い地域を彷彿とさせるアイディアや提案が生まれました。また、今年は初の試みとして社員のご家族を招待し、研修の様子や職場の見学をしていただきました。今回の取り組みを通して、「家族はどんな会社で働いているのか」という外部からは把握しにくい部分までご理解いただくことができ、非常に実りのある研修となりました。



### ■ SDGs社内勉強会

2021年9月より部署ごとにSDGs社内勉強会を行っています。「そもそもSDGsとは何か」「SDGs達成に向けて三光や自分たちができる取り組みは何か」など、SDGsの基礎となる勉強をクイズやレクリエーションを交えながら楽しく行いました。社員一人ひとりがSDGsを身近に感じ、取り組みを推進していくことを目指しており、合計10回以上の勉強会を社内で開催しました。また、勉強会の終了後は、「SDGs宣言書」として職場や私生活の中で意識していきたいSDGsの取り組みを用紙に記入してもらい、それぞれの部署で掲示しています。SDGsをより身近に感じてもらう機会を今後も定期的に設けていきたいと思います。



### ■ 社員の頑張りへの評価

#### 【永年勤続表彰】

三光グループの発展のために尽力し貢献してきた社員に対して、入社20年・30年という節目の年に功労を称える表彰式を行っています。2021年度9月基準対象者：8名（勤続30年1名、20年7名）、2022年度9月基準対象者：5名（勤続30年1名、20年4名）の社員が表彰を受けました。

#### 【かいぜん制度】

業務改善を目的とした質の高い作業改善への取り組みを評価の上選出し、報酬を贈呈する制度です。業務の効率化の向上とともに社員のモチベーションアップを促すことを目指しています。

#### 【一隅制度】

周りの人や自分すら気づかないような目立たない取り組みや、つい見逃してしまう様な気配りや物事にきちんと取り組む人を他者推薦によって選出し、報酬を贈呈する制度です。社員同士で推薦し褒めたたえ合うことで、活力のある職場づくりに繋げていくことを目的としています。



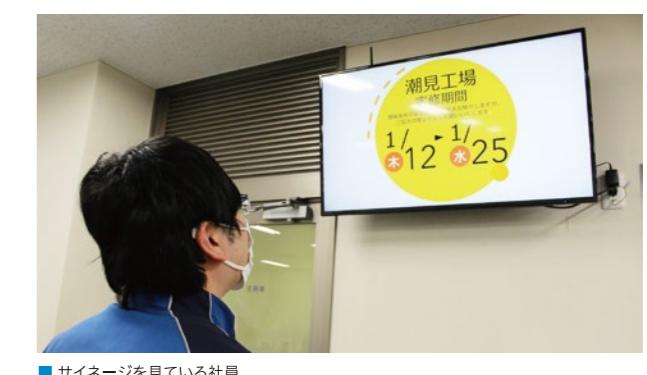
### ■ 社内デジタルサイネージの設置

今年より各拠点に社内デジタルサイネージを設置しました。デジタルサイネージとは、共有したい情報をディスプレイに映し出して隨時発信することができるツールのことです。サイネージを導入するねらいは以下の通りです。

- ①部署間の情報格差の軽減
- ②社員同士のコミュニケーションおよび情報共有の活発化
- ③経営方針や社長訓話を日常的に掲示し三光マインドを根付かせる

サイネージ内容としては、新しく入社した社員のプロフィール紹介や、社内イベントのお知らせなど社員同士の会話のきっかけになるような情報も含まれており、社員が親しみやすく自

然に意見が聞こえてくるような風通しの良い環境を目指して取り組んでいます。



## Club activity

### 三光ハンドボール部が発足しました

2022年4月より新たに創設された「企業内クラブ活動の支援制度」に合わせて、三光ハンドボール部が発足しました。企業内クラブ活動の支援制度とは、「①社員間でのコミュニケーション円滑化 ②部署間交流による



■ 様々な部署から参加しているメンバー

情報共有 ③企業への愛着や貢献意欲向上」を目指し導入された制度で、弊社ではクラブ活動の運営費補助や、活動支援を行っています。

三光本社のある鳥取県境港市は以前からハンドボールが盛んな地域で、地元の高校生のチームなどはインターハイへの出場経験も豊富な強豪校として知られています。現在、三光ハンドボール部は総勢16名で活動しており、部署や勤続年数、年齢など垣根を超えたメンバーで楽しく一所懸命練習に励んでいます。また、2022年9月には、地元の中学生チームや成人チームと合同練習を行い、コミュニティの輪を広げていくことができました。現在は大会出場の目標を掲げており、目標達成に向けて挑戦していきます。

## People

### 三光自慢の社員！



### 鳥取支店 宗像美月

鳥取支店ではルート営業を担当し、お客様の定期訪問や見積作成、回収立ち合いなどを行っています。日中の仕事が終わると、夜はバドミントンの練習、週末は試合やキッズの指導など自身のやりたいことへ全力で取り組むマルチな活躍がヒカル自慢の社員です！



スポーツと仕事の両立は大変だね。言われることが多いのですが、大変と思った事は無くて…(笑)

沢山の方に応援していただける環境でバドミントン選手で活動できるので幸せだなと思いますし、もっともっといい報告ができるように頑張らないといけないなと思っています。

地域貢献の一環として講習会や指導を行っていますが、何事にも「楽しんでもらうこと」を一番重要視しています。うまくな

りたい・勝ちたいの気持ちも大事ですが楽しむ気持ちがないと新しいことが吸収できないと感じています。

そして、何事にも楽しむ気持ちは、仕事にも生きてくると思っています。入社して約2年が経ちますが、産業廃棄物の仕事は、日々新たな知識・経験の積み重ねで時には難しい案件もありますが、これからも何事にも挑戦して楽しんでレベルアップしていきたいと思います。



■ 地域の子ども達と交流しながらの講習会

## SANKO Group 三光グループ

### さんこう境高奨学生の授与式が行われました

三光ホールディングス

2022年7月15日(金)に、2020年11月に創設した「さんこう境高奨学金」の2回目となる授与式が、鳥取県立境高等学校で行われました。

今回の奨学生にはサッカー部に所属する高田翔太さん(鳥取市出身)、太田奏都さん(鳥取市出身)、福井碧羽さん(倉吉市出身)の3名が選ばされました。

授与式では弊社代表の三輪より「サッカーだけではなく勉強も頑張ってもらい、境高校で色々な事を身に付けて、次のステップに羽ばたいてください。また、健康にも気を遣って、良い高校生活を送ってください。」と挨拶があり、奨学生の3名からは「ご支援いただきありがとうございます。3年間部活動と勉強を両立させてがんばっていきます。」と感謝の意と今後の抱負を述べられました。

三光グループは今後も奨学金給付事業を通じて、県外等の遠方から入学した生徒を支援することで、鳥取県境港市の高等学校教育の充実発展に寄与し、社会貢献を果たしてまいります。



■ 写真左から 弊社代表／三輪、高田さん、太田さん、福井さん、境高等学校同窓会会長／土井一郎様、境高等学校長／松田敏男様

### 米子北斗中学校・高等学校に防災井戸を寄付

エイチテック

2022年7月22日(金)に米子北斗中学校で『シネコポータルを活用した「拡張生態系」学習』のオープニングセレモニーが開催され、セレモニーの中で弊グループのエイチテックが寄付した防災井戸が紹介されました。

「シネコポータル」とは多種多様な植物を混生・密生させ、生態系を作り出し、その成長過程を継続して観察することで生物多様性の持つ様々な力を学んでいくもので、今回米子北斗中学校の生徒たちによって整備されました。

今回の防災井戸の設置目的としては、シネコポータルへの水やりと災害時の生活用水の確保があります。

米子北斗中学校様からは「これまででは、水やりの際に離れた

場所にある水道から水を運んでいましたが、今回シネコポータルの近くに防災井戸を設置したことでの水やりが大変やりやすくなりました」と感謝のお言葉をいただきました。

今回設置した防災井戸は電動ポンプではなく、手動ポンプ式となっています。災害時に停電が発生しても手動で井戸水を汲むことができ、断水時の生活用水として利用する事が可能となっています。



■ 手動ポンプを動かしている様子

### 三光ホールディングス

### 鳥取県文化振興財団の企業パートナー制度への賛同

鳥取県文化振興財団は、県内における文化芸術に関する各種の事業を推進し、県民文化の育成と振興を目的に事業活動を行っています。

三光ホールディングス

当グループでは、2021年11月より地域貢献の一環として、地元での文化芸術の振興活動に賛同し、パートナー企業として協賛を行っています。

### 蛍光管破碎処理をスタート

サンライズさんこう

サンライズさんこうでは2021年3月に蛍光管(水銀使用製品産業廃棄物)の破碎の許可を取得し、4月より蛍光管の破碎処理をスタートしました。

水銀を含む蛍光管は、都道府県から「水銀使用製品産業廃棄物」の収集運搬又は処分の許可を受けた業者に依頼しなければならないと定められています。

蛍光管の処理は前処理として全数被覆チェックを行いフィルム等がないか確認します。その後蛍光管の種別毎に分け、

破碎機に投入を行います。蛍光管専用の破碎機により揮発した水銀が外部に流出しない仕組みになっています。

また、サンライズさんこうでは障がい者の雇用を推進しており、蛍光管单一品目での処理を進めることにより、障がいのある方でも安全で、効率良い作業として効果的であったと思われます。



■ 破碎処理作業風景

# Data

## 財務データ、環境データ、社会データ

Financial data, Environmental data, Social data

各活動実績データ、産業廃棄物  
処分業、収集運搬業許可一覧を  
掲載しています。



## 活動実績データ

### 財務データ

科 目	44 期	43 期	差 領
	2021年10月～2022年9月	2020年10月～2021年9月	
売 上 高	7,669百万円	7,537百万円	132百万円
粗 利 益	5,938	5,908	30
販 売 管 理 費	4,436	4,042	394
営 業 利 益	1,502	1,866	△ 364
経 常 利 益	1,556	2,089	△ 534

### 社会データ

#### 従業員数の内訳 (2022年3月末現在)

従業員数	男 性	女 性
290名	229名	61名

#### 雇用状況

平 均 年 齢	43歳 (2022年4月1日)
平 均 勤 続 年 数	9年 (2021年度)
障 が い 者 雇 用 者 数	14.5名 (2021年度)

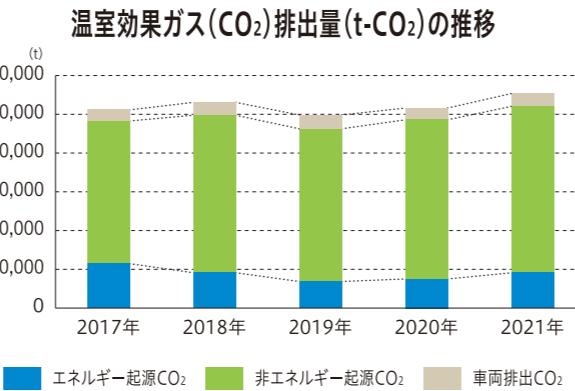
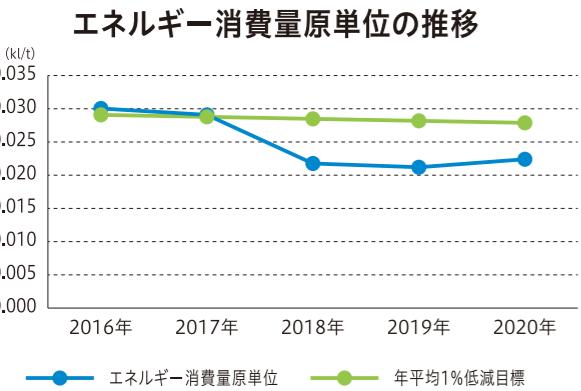
#### 階層別女性労働者の割合 (2022年3月末現在)

一 般 社 員	59名 (20%)
管 理 職	2名 ( 7%)
役 員	0名 ( 0%)

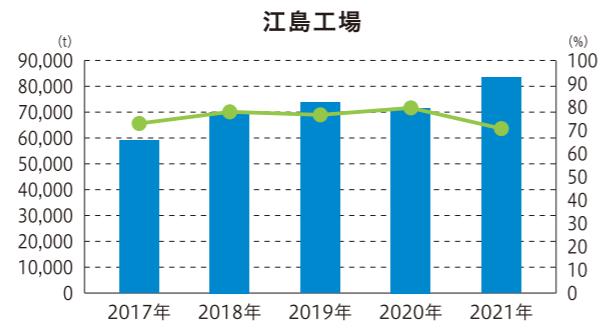
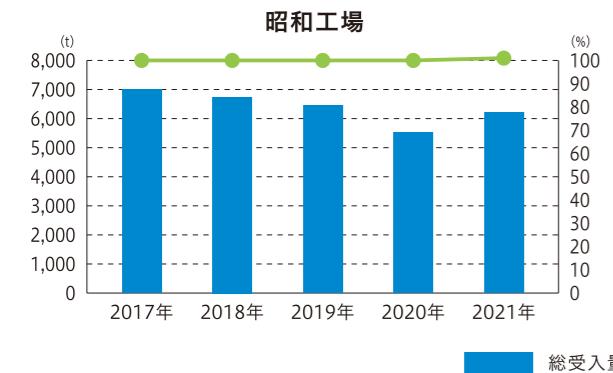
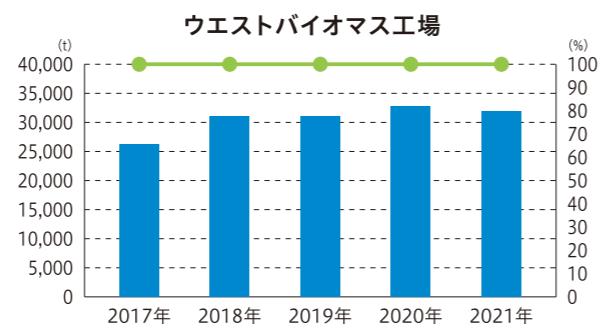
#### 育児休業関連 (2021年4月～2022年3月末まで)

育児休業取得対象者数			育児休業取得人数		
女性	男性	計	女性	男性	計
1名	6名	7名	1名	1名	2名

環境データ



再 資 源 化



## 2021年の排ガス分析データ

潮見工場		
	測定値	法規制値
ばいじん [g/Nm³]	0.001	0.08
硫黄酸化物 [K值]	0.352	17.5
窒素酸化物 [ppm]	68.0	250
塩化水素 [mg/Nm³]	53.0	700
ダイオキシン類 [ng-TEQ/Nm³]	0.0035	1

ウエストバイオマス工場		
	測定値	法規制値
ばいじん [g/Nm <sup>3</sup> ]	0.002	0.08
硫黄酸化物 [K值]	0.381	17.5
窒素酸化物 [ppm]	193.0	250
塩化水素 [mg/Nm <sup>3</sup> ]	24.2	700
ダイオキシン類 [ng-TEQ/Nm <sup>3</sup> ]	0.021	5

江島工場		
	測定値	法規制値
ばいじん [g/Nm³]	0.052	0.08
硫黄酸化物 [K値]	0.033	17.5
窒素酸化物 [ppm]	88.0	250
塩化水素 [mg/Nm³]	27.0	700
ダイオキシン類 [ng-TEQ/Nm³]	0.021	1

許可一覧

## 産業廃棄物処分業許可・事業所一覧

※環境大臣認定　※詳細な許可情報について、三光webページの「情報開示」に掲示しております。

## 產業廢棄物處理業許可一覽

地方	行政名称	産業廃棄物	特別管理産業廃棄物	地方	行政名称	産業廃棄物	特別管理産業廃棄物	
処 分 業				収 集 運 搬				
中国地方	鳥取県	優 03124003489	優 03174003489	中部地方	福井県	優 01805003489	優 01855003489	
	島根県	優 03220003489			愛知県	優 02300003489		
	松江市	優 12920003489			静岡県	優 02201003489	02251003489	
収 集 運 搬					山梨県	優 01900003489		
中国地方	鳥取県	優 03114003489	優 03164003489		長野県	優 2009003489	優 2059003489	
	鳥取市	優 12811003489	優 12861003489		岐阜県	優 02100003489		
	島根県	優 03210003489	優 03260003489		富山县	01601003489	01651003489	
	松江市	優 12910003489			石川県	01709003489	01759003489	
	岡山県	優 03303003489	優 03353003489	関東地方	東京都	優 13-10-003489	13-66-003489	
	広島県	優 03400003489	優 03450003489		神奈川県	優 01403003489	優 01453003489	
	山口県	優 03506003489	優 03556003489		埼玉県	優 01101003489	優 01151003489	
	福岡県	優 04000003489	優 04050003489		千葉県	優 01200003489	01250003489	
九州地方	大分県	優 04408003489			群馬県	優 01000003489		
	高知県	優 03900003489			栃木県	優 00900003489		
四国地方	徳島県	優 3600003489			茨城県	優 00801003489		
	香川県	優 03709003489		沖縄地方	沖縄県	優 04704003489	優 04754003489	
	愛媛県	優 03807003489						
	京都府	優 02601003489	優 02651003489					
近畿地方	滋賀県	優 02501003489	優 02551003489					
	兵庫県	優 02804003489	優 02854003489					
	大阪府	優 02700003489	優 02750003489					
	奈良県	優 02900003489	優 02950003489					
	三重県	優 02400003489						
	和歌山县	03000003489						

I want to keep looking for the "can do" until the end. —————

# 最後まで「できる」を探し続けたい。

年間処理数量

**167,606t/年**

(2021年度実績)

Jクレジット残高

**2,085t-co<sub>2</sub>**

(2021年7月現在)



グループの経営戦略策定及び経営管理

T684-0034 鳥取県境港市昭和町5-17  
https://sanko-hd.co.jp



株式会社  
総合環境事業

T684-0034 鳥取県境港市昭和町5-17  
https://sankokk-net.co.jp



株式会社  
石油輸送・販売事業

T684-0034 鳥取県境港市昭和町5-17  
https://sankokk-net.co.jp



株式会社エイチテック

建設コンサルタント  
T720-0822 広島県福山市川口町一丁目16-35  
https://www.h-tec2004.co.jp



株式会社コーケン

土木建築  
運送  
解体  
産業廃棄物処理事業  
T692-0017 島根県安来市下坂田町290-5  
https://koken-yasugi.co.jp



株式会社サンライズさんごう

障がい者福祉サービス  
産業廃棄物処理業  
T684-0034 鳥取県境港市昭和町5-17  
https://sankokk-net.co.jp/sunrise



## ■ 本社

T684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地1  
TEL 代表 0859-44-5367 FAX 代表 0859-42-3864  
営業 0859-42-5533 営業 0859-47-4532



## ■ 沖縄営業所

T901-2103 沖縄県浦添市仲間1-5-7 山内ビル303  
TEL 098-988-8610 / FAX 098-988-8444



## ■ 浜田営業所

T697-0006 島根県浜田市下府町327-71  
TEL 0855-24-1267 / FAX 0855-24-1277



## ■ 中部営業所

T455-0024 愛知県名古屋市港区大江3  
(JERA西日本支社ビル内)  
TEL 0859-21-2100 / FAX 0859-47-4531



## ■ 板橋営業所

T148-0041 東京都板橋区舟渡1-7-6  
TEL 03-5914-0288 / FAX 03-5914-0299



## ■ 東日本営業部

T111-0052 東京都台東区柳橋1丁目3-6  
VORT浅草橋駅前III10階  
TEL 03-6263-0480 / FAX 03-6263-0481



## ■ 安来支店

T692-0017 島根県安来市下坂田町290-5  
(株式会社コーケン内)  
TEL 0854-27-7705 / FAX 0854-22-4288



## ■ 倉吉営業所

T682-0913 鳥取県倉吉市和田東町146-3  
TEL 0858-27-0270 / FAX 0858-24-6020



## ■ 鳥取支店

T689-0105 鳥取県境港市福部町湯山544-1  
TEL 0857-75-2551 / FAX 0857-74-3551



## ■ 江島工場

T690-1401 島根県松江市八束町江島1128番地105  
TEL 0852-76-3586 / FAX 0852-76-3426



## ■ 潮見工場

T684-0074 鳥取県境港市潮見町1番地  
TEL 0859-44-5277 / FAX 0859-44-7500



## ■ 出雲支店

T699-0621 島根県出雲市斐川町富村653  
TEL 0853-73-7310 / FAX 0853-72-5117



## ■ 山陽支店

T719-1162 岡山県総社市岡町105-3  
TEL 0859-42-5533 / FAX 0859-47-4532



## ■ ウエストバイオマス工場

T684-0074 鳥取県境港市潮見町2番地2  
TEL 0859-21-4860 / FAX 0859-21-4861



## ■ 昭和工場

T684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地11  
TEL 0859-42-6960 / FAX 0859-42-6961

## 編集後記

CSRレポート2022「みらいbook」をご覧いただき、ありがとうございます。本レポートは、「人」にスポットをあてて、お取引先や地域、教育機関等を含むステークホルダーの方々と当社との関わりを主軸として作成をいたしました。また本レポートは、従来のレポートからページ数とビジュアルで見せる部分を増やしました。当社とご縁のある多く

の皆様によりわかりやすく、廃棄物処理を行う総合環境企業としての当社の活動内容をお伝えできました幸いでございます。

今後も「地域にとってなくてはならない企業」であり続けるための取組を継続して行ってまいります。

CS推進部 山本、村山、田川、伊達